■ 「効果の見える治水事業」

出走（でばしり）海岸　高潮対策事業

『愛媛県今治市上浦町出走　越波から人家を守る』

愛媛県東予地方局今治土木事務所長　今井（いまい）　良計（よしかず）

■事業の概要

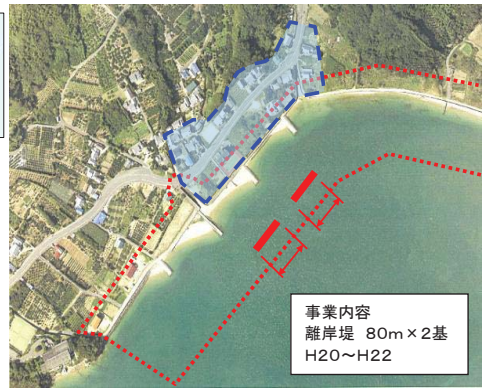
出走海岸は、瀬戸内海に浮かぶ大三島の南端に位置し、しまなみ海道の大三島橋のたもとに広がる延長 3,199m の海岸で、白い砂浜を持つ美しい海岸です。

海岸背後の集落には、生活道路である主要地方道大三島環状線をはさんで人家や保養所が建っており、昭和５０年代に建設されたコンクリート護岸で背後地を守ってきましたが、前浜が後退してきていることもあり、近年、台風時には越波による浸水被害が頻発していました。

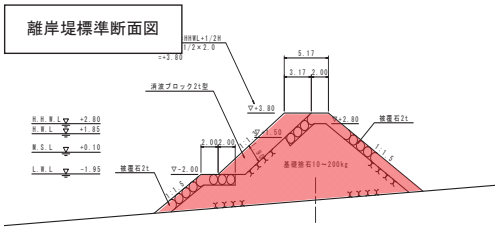
特に平成１６年度に発生した台風１６号では、南西からの風波の影響による越波により、人家に浸水被害が発生し、護岸損傷や水叩きの陥没が発生しました。その際は、波が河口を逆流して背後の主要地方道にまで到達したため、消防団や役場職員によるポンプ排水などの水防活動があったと聞いております。

これらをうけて、背後の浸水被害防止を図るため、平成２０年度から高潮対策事業で離岸堤の整備に着手し、平成２２年度に完成しました。施工にあたっては、景観に配慮して陸側からは消波ブロックが見えないような構造としており、併せてコスト縮減にも寄与しております。

また連続する侵食を受けた護岸については、別途「津波高潮危機管理対策緊急事業」で護岸補強を行うなど、一体的な海岸整備を行いました。



全景（完成後）



―地域防災の発展を目指して―

今治市長　菅（かん）　良二（りょうじ）

今治市は，市の中心部を来島海峡が横断するという特異な市域を持っており、しまなみ海道をはじめとする素晴らしい景観、歴史文化遺跡、伝統芸能などのほか山海の食材など多彩な地域資源に恵まれています。

このように産業と美しい自然が調和し発展を続ける本市ですが、今後３０年以内に６０%から７０%の高い確率で発生が予想される東南海・南海地震に対する対策が重要課題であると考えております。昨年の３月１１日には東日本大震災が発生し、想像を絶する被害がありました。地域をしっかり守っていくことの大切さを考えた時に、自主防災組織の機能充実は言うまでもなく、その自主防災組織をしっかりと支えていく防災士の育成が必要であるとの考えに至りました。今治市における防災の基本計画である地域防災計画にある、「災害に強いまちづくりの推進」のためには、地域住民による「自助・共助」が重要であるとされており、地域における防災の担い手の確保は、近年特に重要性を再認識されております。自主防災組織の育成に取り組む中で、そのリーダーとなる防災士について、平成２２年度に今治市防災士育成事業として３０名、平成２３年度は愛媛県と今治市との共同事業による愛媛県防災士養成事業で９９名を養成しており、すでに取得されていた方を含めると、約２００名の防災士が誕生しております。また、平成２４、２５年度においても同様に、愛媛県とともに１００名ずつの防災士を養成する予定です。

今後も、住民一人ひとりの安全に対する意識の高揚を図り、引き続き自主防災組織の育成に努めるとともに、関係機関・地域の皆さまのご協力をいただき「豊かで安全なまちづくり」を進めてまいります。

平成 23 年度　防災士養成講座

平成 23 年度　防災訓練（水防工法訓練）